

# SBI TODAY

第 19 期

報 告 書

2016年4月 1日

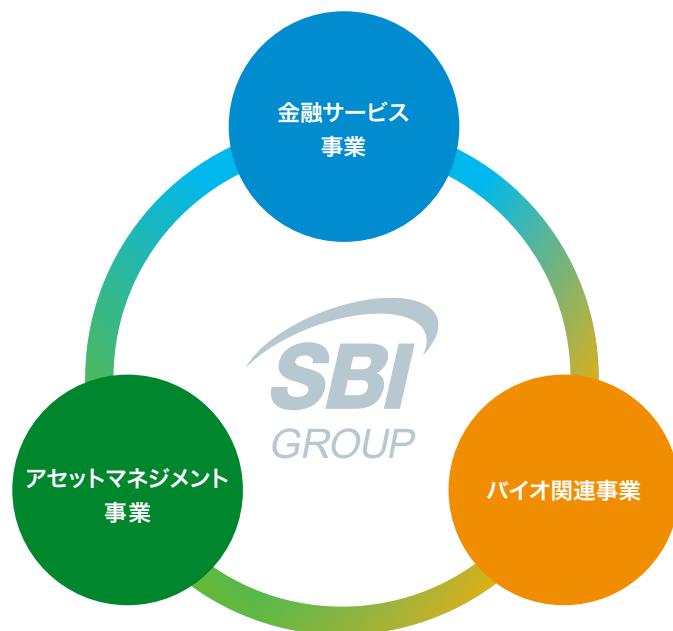
2017年3月31日

証券コード:8473

# MISSION & PROFILE

SBIグループは3つの主力事業を中心に、  
Strategic Business Innovator(戦略的事業の革新者)  
として、持続的成長を実現すべく挑戦しています。

SBIグループは、SBI証券や住信SBIネット銀行、SBI損保、SBI生命などをはじめとする多種多様な金融関連事業からなる「金融サービス事業」、国内外のベンチャー企業などへの投資や資産運用などのサービスを提供する「アセットマネジメント事業」、医薬品・健康食品・化粧品などのグローバルな研究開発・製造・販売を行う「バイオ関連事業」を3大事業と位置づけ、事業を展開しています。そして創業以来「顧客中心主義」を常に企業活動の核とし、時流をいち早く捉えることで革新的な商品・サービスの創出にチャレンジしています。



SBIグループは、5つの経営理念を長期的・普遍的な経営の指針とし、  
創業以来、常に新しい価値を創造し続けています。

## 01

### 正しい倫理的 価値観を持つ

「法律に触れないか」、「儲かるか」ではなく、それをすることが社会正義に照らして正しいかどうかを判断基準として事業を行う。

## 02

### 金融イノベーターたれ

従来の金融のあり方に変革を与え、インターネットの持つ爆発的な価格破壊力を利用し、より顧客の便益を高める金融サービスを開発する。

## 03

### 新産業クリエイターを 目指す

21世紀の中核的産業の創造および育成を担うリーディング・カンパニーとなる。

## 04

### セルフエボリューションの 継続

経済環境の変化に柔軟に対応する組織を形成し、「創意工夫」と「自己変革」を組織のDNAとして組み込んだ自己進化していく企業であり続ける。

## 05

### 社会的責任を全うする

SBIグループ各社は、社会の一構成要素としての社会性を認識し、さまざまなステークホルダー(利害関係者)の要請に応えながら、社会の維持・発展に貢献していく。

日進月歩で開発が進む新技術を積極的に  
取り込むことで、新たな金融生態系の  
構築を目指していきます。

SBIホールディングス株式会社  
代表取締役 執行役員社長

北尾 吉孝



## 収益(売上高)は過去最高を更新、 株式市場の下落に対する抵抗力が向上

当期(2016年4月～2017年3月)における我が国経済は、政府による各種政策の効果等により、緩やかな回復基調が続いたものの、英国でのEU(欧州連合)離脱決定や米国新政権の政策動向等により、景気の先行きに不透明感が残る状況となりました。このような経済環境にあり、国内株式市況は低調に推移し、2市場合計\*1の個人株式委託売買代金は前期比16.4%減少しました。

このような中、当社の当期における連結業績は収益(売上高)が2,619億円となり、過去最高を更新しました。税引前利益は431億円(前期比17.4%減)、親会社の所有者に帰属する当期利益は325億円(同4.9%減)となりましたが、2015年3月期から3期連続して300億円超の親会社の所有者に帰属する当期利益を計上するなど、株式市況の下落に対する抵抗力は着実に向上し、安定した利益を生み出す経営基盤ができあがりました。

\*1 東京・名古屋証券取引所に上場している内国証券(マザーズ、JASDAQ、セントレックス含む)

## 各事業セグメントのハイライト

### 金融サービス事業

- ▶ 金融生態系の構築による相乗効果・相互進化により、顧客基盤は2,179万へと拡大(2017年3月末現在)。
- ▶ 株式市況に過度に依存しない利益構造への移行が着実に進展\*2しており、ほぼ全ての金融サービス事業会社において黒字基調を維持。

\*2 当セグメントの税引前利益に占める証券事業の割合:2016年3月期 75.0%→2017年3月期 67.6%

### アセットマネジメント事業

- ▶ 業界初となるFinTechファンド(▶P8参照)等を通じた新たな技術革新分野への投資を積極化しており、今後運用パフォーマンスの向上が期待される。
- ▶ 韓国のSBI貯蓄銀行では、2016年12月期通期の当期純利益(韓国会計基準)が子会社化以前も含め過去最高を更新。

### バイオ関連事業

- ▶ SBIバイオテックとSBIファーマは多様な創薬・研究開発パイプラインの技術導出等による収益を計上し、創業以来初の通期黒字化を達成。
- ▶ ALA(5-アミノレブリン酸)配合の健康食品の定期購入顧客数の増加やOEM商品の売上増加等により、SBIアラプロモの売上は前期の約2.3倍に。

## 新たな価値の創出を目指し、 革新的な取り組みを推進

SBIグループは1999年の創業以来、金融の規制緩和とインターネット革命という2大潮流に乗って、顧客の多種多様なニーズに応える新しい価値を創出してきました。そして今、AIやIoT、ブロックチェーン\*1などに代表される新技術を、金融ビジネスに活用すること(※ FinTech:P7参照)でまた大きな変革を起こそうとしています。

### FinTech 1.0からFinTech 2.0への パラダイムシフト

SBIグループでは2016年に完成したインターネットをメインチャネルとした金融生態系(FinTech 1.0)から、**ブロックチェーンを中核技術とし、革新的な金融サービスを提供する新たな金融生態系(FinTech 2.0)への移行を目指し、様々な取り組みを進めています。**具体的には、FinTechファンド等を通じてFinTech関連分野における新技術を有する有力ベンチャー企業への投資を積極的に行っています。そして、グループ内金融サービス事業各社においては、それら投資先との提携を通じ、ロボアドバイザーサービス(※ P7参照)の充実やトランザクションレンディング\*2の本格化、パーソナルな保険商品の開発など、新ビジネスの展開を進めるとともに、ブロックチェーンを活用した次世代型送金システムの構築(※ P8参照)など、新たな金融ビジネスの創造や業務効率化を推進しています。

### 地域経済の活性化に向け、地域金融機関の FinTech導入を支援 (※ P10参照)

SBIグループでは国家戦略である地方創生の実現に向けた各種取り組みを進めており、地方経済を支える大きな柱の1つである地域金融機関に対して、SBIグループの有する顧客便益の高い多様な金融商品やFinTech等に関わる経営資源の提供などを通じ支援することで、彼らの企業価値の向上に貢献し、その実現を目指しています。

また、設立予定の1,000億円規模の「SBI地域銀行価値創造ファンド」を通じて、銀行間株式持ち合い解消による資本の有効活用を促し、地域金融機関によるFinTechサービスの導入支援なども推進していきます。

### ALA関連事業の早期収益化への取り組み

当社グループの中長期的な成長の牽引役として期待するALA関連事業では、アラブ首長国連邦(UAE)の世界的な製薬企業であるネオファーマ社と合併企業を設立し、ALAを利用した医薬品等(SBIファーマがネオファーマ社にライセンスアウトし、同社が開発を進める糖尿病やマラリアの治療薬等)の海外販売体制を強化するなどグローバルな事業体制の構築を進めています。また、**早期収益化を図るため、研究開発パイプラインを峻別するとともに、製薬企業や健康食品、化粧品メーカーへの技術導出や事業提携などを積極的に推進しています。**加えて、重点施策の1つとして掲げる国内での新たなALA配合の機能性表示食品の開発やイチョウ葉などALA以外の成分を使った健康食品等の展開も進めています。

#### \*1 ブロックチェーンとは

金融取引などの記録をインターネット上の複数のコンピューターで互いに共有し、検証しながら正しい記録を鎖(チェーン)のようにつないで蓄積・管理する仕組みのことです。「分散台帳技術」といわれ、記録改ざんが防げると同時に、取引記録を集中管理するための大規模なインフラ投資が不要となることから、運営コストが低下するといわれています。

#### \*2 トランザクションレンディングとは

融資を望む事業者のオンライン上での売買や資金決済などの電子化された取引履歴・情報を利用して、審査を行う事業性融資サービスのことです。従来の銀行だと時間のかかった融資審査が、短時間で終了し、融資実行まで数日で完了するため、中小企業が必要なタイミングで短期運転資金を調達できるようになるといわれています。

創業以来掲げる「顧客中心主義」の徹底と積極的な株主還元を通じ、さらなる企業価値の拡大と持続的成長を目指していきます。

## 利益に連動した高水準の株主還元を継続

当社は、配当政策の基本方針として、年間配当金について最低配当金額として1株当たり10円の配当を実施することとし、持続的な成長のための適正な内部留保の水準、当面の業績見通し等も総合的に勘案し、さらなる利益還元が可能と判断した場合にはその都度引き上げることを目指すとしています。

また、**配当金総額と自己株式取得額の合計により算出される還元性向について、親会社の所有者に帰属する当期利益の40%を下限として株主還元を実施することを目指しています。**

当期は、業績が堅調に推移したことや株式市況を踏まえ、1株当たり10円の間配当金に加え、期末配当金を1株当たり40円とし、年間配当金は前期比5円増配となる1株当たり50円としました。これで4期連続での増配となります。

また、2016年8月～9月において約80億円の自己株式取得を実施しており、当期における配当金総額に自己株式取得額を加えた総還元額は182億円、総還元性向は55.9%となりました。

	中間	期末	年間
2017年3月期	10円	40円	50円
2016年3月期	10円	35円	45円

## 企業価値の持続的拡大に向けて

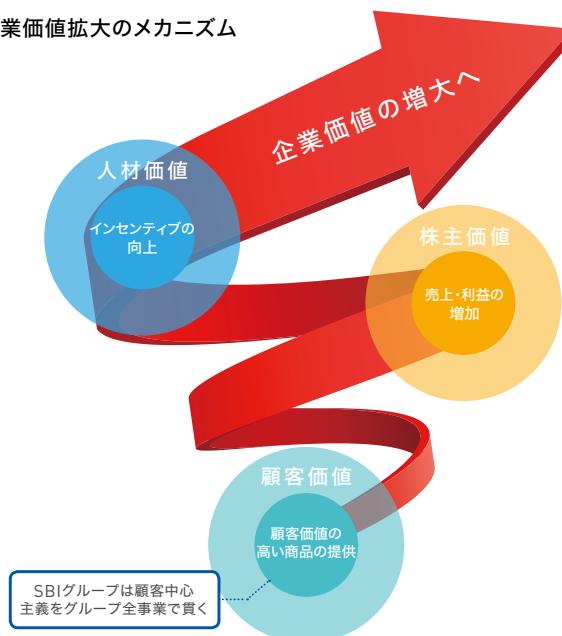
私たちSBIグループでは、企業価値とは企業が顧客に提供する財・サービスの本源的価値である顧客価値の創出を土台とし、株主

価値、人材価値と相互に関連する好循環によって一層増大していくと考えています。

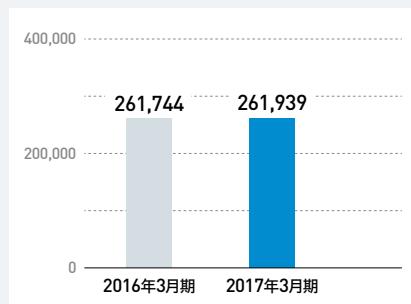
「顧客中心主義」をグループ全体で徹底することで、顧客価値を増大させることができれば、それが業績の向上に寄与し、株主価値が増加します。これによって優秀な人材の確保が可能となり、人材価値の向上につながります。優秀な人材が確保できればより良い商品・サービスを創出することができ、さらに顧客価値が増大します。

株主の皆さまにおかれましては、今後もこの好循環を生み出しながら新たな成長ステージへと踏み出すSBIグループに、より一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

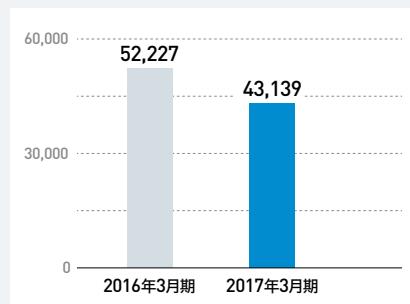
## 企業価値拡大のメカニズム



■ 収益(百万円)



■ 税引前利益(百万円)



■ 親会社の所有者に帰属する当期利益(百万円)

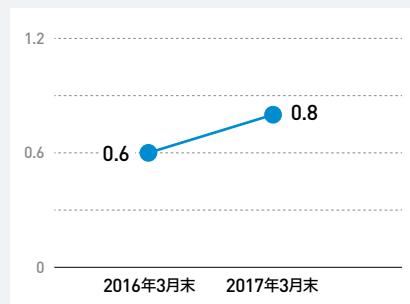
○ 基本的1株当たり当期利益(EPS)(円)



● 親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)(%)

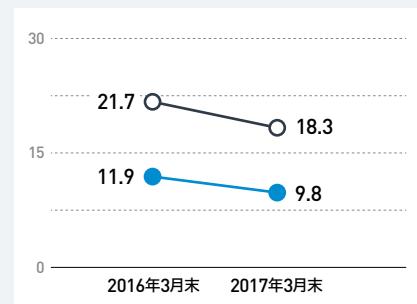


● 1株当たり親会社所有者帰属持分倍率(PBR)(倍)<sup>\*1</sup>

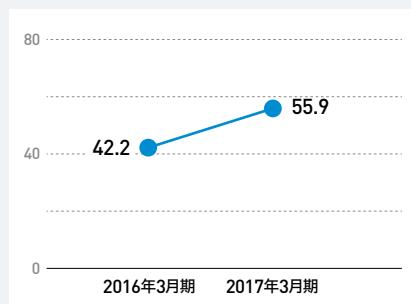


● 親会社所有者帰属持分比率(%)

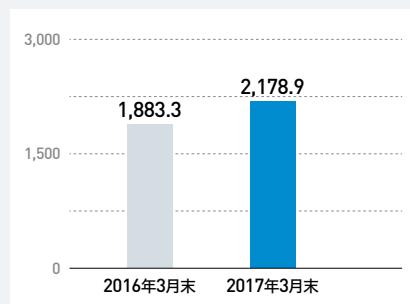
○ 実質的親会社所有者帰属持分比率(%)<sup>\*2</sup>



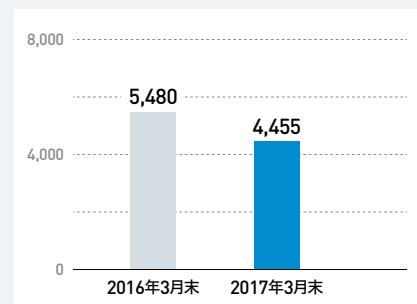
● 総還元性向(%)<sup>\*3</sup>



■ グループ顧客基盤(万)



■ 連結従業員数(人)<sup>\*4</sup>



\*1 PBR=各期末当社東証株価終値÷1株当たり親会社所有者帰属持分

\*2 証券会社特有の資産・負債勘定の影響を考慮した実質的親会社所有者帰属持分比率

\*3 総還元性向=(配当金総額+自己株式取得額)÷親会社の所有者に帰属する当期利益

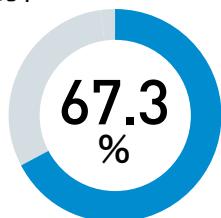
\*4 ナルミヤ・インターナショナルがグループ外となったことにより減少

## 金融サービス事業

収益

176,989 百万円  
(前期比 6.5% 増)税引前  
利益48,853 百万円  
(前期比 3.8% 減)

収益構成比率\*



前期に比べ株式市況が低調であったことなどを背景に、グループの収益を牽引するSBI証券の税引前利益は減少しました。他方で、FX関連事業や株式市況の影響を受けにくい保険事業を中心とした証券事業以外の金融サービス事業が、順調に業容を拡大し各社の業績が伸長していることから、証券事業への依存度が着実に低下しています。また、設立2年以内の子会社を除く全ての子会社が黒字化し、さらに成長基調を強めていることもセグメント全体の業績に寄与しました。

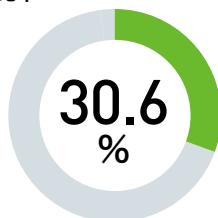
その結果、当期の金融サービス事業の業績は、収益が前期比6.5%増の1,770億円と過去最高を更新し、税引前利益は489億円(前期比3.8%減)の微減となりました。

## アセットマネジメント事業

収益

80,392 百万円  
(前期比 12.2% 減)税引前  
利益13,940 百万円  
(前期比 21.0% 減)

収益構成比率\*



国際会計基準(IFRS)を採用していることから、保有銘柄の各期末における公正価値の変動が業績に影響を与えましたが、安定的に成長する韓国のSBI貯蓄銀行やモーニングスターが当セグメントの全体業績を下支えし、当期のアセットマネジメント事業の収益は804億円、税引前利益は139億円となりました。

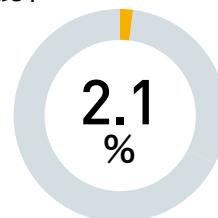
個別企業の業績でみると、韓国のSBI貯蓄銀行は正常債権の残高が大幅に増加したことなどを背景に、当期純利益(韓国会計基準)は子会社化以前の期間も含め過去最高を達成しました。また、資産運用サービス事業のモーニングスターは、営業利益、経常利益、当期利益が8期連続の増益を達成し、好調に推移しました。

## バイオ関連事業

収益

5,530 百万円  
(前期比 37.5% 増)税引前  
利益▲9,574 百万円  
(前期は6,572百万円の損失)

収益構成比率\*



当期のバイオ関連事業は前期比で税引前損失が拡大しました。主な要因は、SBIバイオテックの完全子会社であるクォーク社において、2本のフェーズⅢを含む複数の臨床試験が順調に進行中であり、研究開発費等が増加したことにあります。他方、SBIバイオテック単体では協和発酵キリン(株)と創薬パイプラインの技術導出契約を締結したことに伴う契約一時金の計上等により、創業以来初となる通期黒字化を達成しました。

また、ALA関連事業については、SBIファーマにおいて糖尿病およびマラリア治療薬の導出のほか、中外製薬(株)への膀胱がんの術中診断薬「アラグリオ®顆粒剤1.5g」の独占販売権の提供に伴う契約一時金の受領により、創業以来初の通期黒字化を達成しました。

\* セグメント別の収益構成比率は、金融サービス事業・アセットマネジメント事業・バイオ関連事業の収益合計に対する構成比率を記載しています。

# “FinTech” が変える金融と暮らし

**Q** FinTech(フィンテック)ってなに？

**A** 金融とIT(情報技術)の融合による、世界的な金融サービスの革命です。

FinTechとは、金融を意味する“Finance”と技術を意味する“Technology”を融合させた造語で、ITを駆使した革新的、かつ従来の金融の仕組みを大きく変えてしまうという意味で破壊的とさえいわれている金融商品・サービスを指します。現在、スマートフォンやクラウドサービスの利用が急速に拡大する中、ユーザーはより優れたインターフェースを持ち、いつでもどこでも使える、便利で安いサービスを求めるようになっており、世界各国の金融機関では、ITベンチャー企業と連携し革新的な金融サービスの開発を加速させています。2016年におけるFinTechに対するグローバル投資額はアジア・パシフィック地域への投資が牽引し、過去最高の232億ドルとなりました。\*

\*コンサルティング会社・アクセンチュア社の調査より



## POINT

創業時から金融とITとの親和性の高さに着目してきました。

SBIは創業時から、インターネットは金融のあり方を変えようと考え、金融とITの親和性の高さに着目し、インターネットを通じた多種多様な金融サービス事業を展開してきました。2016年にはインターネットをメインチャネルとする証券・銀行・保険などからなる世界に類を見ない「インターネット金融コングロマリット(FinTech 1.0)」を確立しました。

## FinTechで 何が変わる？

仮想通貨取引の中核技術として知られるブロックチェーンを活用することで国内・海外ともに送金が24時間365日、即時で決済されるようになり、送金コストも現在の20分の1～10分の1と大幅に低くなると言われています。



個人向けに、複数の銀行口座の入出金・残高状況やクレジットカードの利用、ポイント残高などを同一画面上で一括管理できる様々な資産管理・家計簿アプリが登場しており、ユーザーは自身の資産状況を一元的に管理できます。

## SBIグループの新サービス



WealthNavi for  
SBI証券

## SBI証券

ロボアドバイザー

### 「WealthNavi for SBI証券」

SBI証券は、2017年1月より、ロボアドバイザーが客観的で透明性の高いアルゴリズムに基づき、自動でお客さま一人ひとりに最適なポートフォリオを設定する資産運用サービス「WealthNavi for SBI証券」の提供を開始しました。また、信託SBIネット銀行においても、ロボアドバイザー「WealthNavi for 信託SBIネット銀行」を2017年2月より提供しており、両サービスとも個人投資家の皆さまよりご好評をいただいています。

個々の投資  
スタイルに合った  
資産運用を実現！



お金を借りたい人・企業と  
お金を貸したい人・企業  
をオンライン上で仲介する  
ソーシャルレンディングサー  
ビスなどが登場したことで、より多くの人に、  
スピーディーな融資が可能  
になりました。



決済

小型のカード読取装置など  
の専用端末をスマートフォン  
やタブレットに差し込む  
ことでクレジットカード決  
済を行います。スマートフォンを  
かざすだけで支払えるモバイル  
決済も普及し始めています。



投資

オンライン上で投資に関する簡単な質問に答える  
ことで、人工知能(AI)を活用した「ロボアドバイザー」が、ユーザーの投資スタイルやリス  
ク性向に基づいた最適なポートフォリオ  
の提案や資産運用をアドバイス  
します。

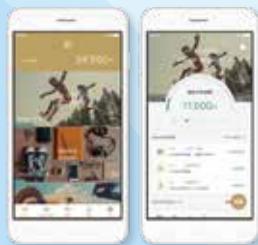
## 住信SBIネット銀行

**SBI Sumishin Net Bank**

### 預金口座と連動した自動貯金サービス 「finbee(フィンビー)」との連携

住信SBIネット銀行が2016年12月より連  
携開始した(株)ネストエッグの「finbee」は、  
自動で無理なく確実に貯金できる自動貯金  
サービスです。ユーザーはそれぞれ貯金の目  
標を設定し、例えばカード決済のタイミング  
など、毎日の生活の中でどんな時にいくら貯  
金するかを決めるだけで住信SBIネット銀行  
の預金口座に紐づいた貯金用口座に自動で  
貯金することができます。

\*サービス提供事業者がログインID、パスワード、個人情報  
などを保有することなく、代表口座とその一部である  
目的別口座間の振替などができるシステム接続方法



finbee(フィンビー)

国内初の更新系  
API\*連携により  
ユーザーに合った  
貯金サービスを  
提供!

## Q SBIグループが注目する FinTech分野はなんですか？

## A ビットコインなどの仮想通貨取引を支える 中核的技術であるブロックチェーンなどに 注目し、新たな金融ビジネスの創造を目指し ています！

SBIグループでは、FinTech分野における様々な新技術のいち早い  
導入を進めており、新たな金融サービスを次々に展開しています。仮想  
通貨取引を支える中核的技術として知られるブロックチェーンやDLT  
(Distributed Ledger Technology:分散台帳技術)を活用する新  
たな金融サービスとして、「送金コストの大幅な削減」や「24時間リアル  
タイム決済」を可能とする次世代型の国内・海外送金システムの構  
築を国内の金融機関59行(2017年5月現在)と目指しており、国内の  
金融機関による国内・海外送金システムの本格的な商用利用に向け、  
SBIグループは投資先の米Ripple社とも連携し、技術面でサポートし  
ています。



POINT

業界初の「FinTechファンド」をいち早く設立し、  
FinTech分野への投資を積極化しています。

SBIグループは2015年12月にFinTech分野の有望なベンチャー企業  
への投資を目的とした出資約束金総額300億円のFinTechビジネスイノ  
ベーション投資事業有限責任組合(FinTechファンド)を設立しており、  
28行の地域金融機関をはじめ多数の金融機関等が参画しています。SBI  
グループでは既に47社、総額260億円(内、当ファンドより150億円:  
2017年5月18日時点)への投資を決定しており、投資先ベンチャーの持  
つFinTech技術の導入・活用の推進を図るなどして、投資先企業のバ  
リュアアップを実現していきます。

## 金融サービス事業

### 大和証券グループと個人型確定拠出年金(iDeCo)ビジネスにおいて資本業務提携契約を締結

SBIグループは2017年1月、大和証券グループとiDeCo分野における資本業務提携契約を締結しました。両グループは、法改正によりiDeCoの加入対象者が2017年1月から拡大したことを契機と捉え、「貯蓄から資産形成へ」の流れを強力に促進することが期待される同分野における連携を強化していきます。iDeCoの新規顧客獲得件数では業界最大手の実績をもつSBIグループと、リアル店舗を中心に全

国的な営業体制を持つ大和証券グループ、双方の経営資源を融合させ、iDeCo市場のさらなる拡大を目指していきます。この提携に基づき、SBIベネフィット・システムズに(株)大和証券グループ本社が資本参加(出資比率:33.4%)するとともに、SBIベネフィット・システムズが記録関連運営管理機関を務める大和証券(株)の新iDeCoプランの提供が2017年4月より開始されています。

### 仮想通貨取引の交換および取引サービスを提供する新会社を設立

近年、ビットコインや米Ripple社のXRPをはじめとした仮想通貨が主要メディアでも大きく取り上げられるほど高い関心を集め、既に活発な取引が行われています。このような環境変化を背景に、2016年11月に仮想通貨の交換および取引サービスを提供するSBIバーチャル・カレンシーズを設立しました。本年4月に施行の改正資金決済法を踏まえ、SBIバーチャル・カレンシーズでは、仮想通貨取引所として、SBI証券やSBI FXトレード、住信SBIネット銀行などのSBIグループ各社の顧客向けに仮想通貨の交換および取引サービスを提供

するほか、グループ投資先等の国内外の仮想通貨取引所との連携を通じ、様々な仮想通貨や地域トークン\*などを利用したサービスを提供する予定です。

\* 地域内で流通する代用貨幣や引換券、商品券等



取引画面(イメージ)

### グループの保険事業が拡充され、顧客便益の高い保険商品の開発・提供が可能に

SBIグループの保険事業は、主に自動車保険を提供する損害保険事業を中心に、生命保険事業、地震補償保険や医療保険、死亡保険を取り扱う少額短期保険事業を展開しています。2016年9月には家財保険等を販売する日本少額短期保険を子会社化し、グループの保険事業は一層拡充しました。多様化するお客さまのニーズにお応えするため、顧客便益のより高い商品ラインナップの整備に向け、SBI損保では火災保険の販売を開始しました。また、SBI生命では同性パートナー\*を死亡保険金受取人に指定可能な保険商品や団体信用生命保険の取り扱い開始等を進めています。

2017年3月には、グループ保険事業を統轄するSBIインシュアランスグループを設立し、その下で保険子会社6社を再編しました。今後は同社を頂点とする保険グループとして一体的な事業運営を図りつつ、さらなる顧客便益の高い保険商品やサービスの開発・提供に向け、グループ内外の企業との提携強化やFinTechの活用等の施策に取り組んでいきます。

\* 男女の婚姻関係と異なる程度の実質を備える、戸籍上の性別が同一である二者間の社会生活関係の相手方を「同性パートナー」と表記しています。

## アセットマネジメント事業

### SBI地域銀行価値創造ファンドの設立を通じ、地域金融機関との関係を強化

SBIグループは地域金融機関の企業価値向上を通じた地方経済活動の活性化に向けて、1,000億円規模の新ファンド「SBI地域銀行価値創造ファンド」の設立を予定しています。SBIグループでは保有する経営資源やFinTech関連技術・ノウハウのほか、SBIグループが出資しているFinTechベンチャーなどとの連携による様々な革新的な金融サービス・商品を、同ファンドが投資する地域金融機関へ提供することで、地域金融機関の直面する様々な課題の解消を図り、彼ら

の企業価値の向上に寄与したいと考えています。また、2017年2月には、日本アイ・ビー・エム(株)と合併でSBI FinTech Incubationを設立しました。同社は、オープンイノベーションによる導入コストの最小化を図ることで、地域金融機関への各種FinTechサービスのスムーズな導入を支援する「FinTechプラットフォーム」の構築に取り組んでいます。

## バイオ関連事業

### ALA関連事業において多数の賞を受賞

SBIグループのALA関連事業において、ALAを利用した医薬品・健康食品・化粧品の研究開発等を行っているSBIファーマおよび同社役員、そしてSBIアラプロモが販売する機能性表示食品「アラプラス 糖ダウン」が、高く評価され、様々な賞を次々に受賞しました。

#### SBI ファーマおよび同社役員

- 第10回 日本バイオベンチャー大賞「経済産業大臣賞」を受賞  
(2017年1月、フジサンケイビジネスアイ主催)
- 2016年度手島精一記念研究賞「発明賞」を受賞  
(2017年2月、東京工業大学)

#### SBI アラプロモ「アラプラス 糖ダウン」

- 第1回「機能性表示食品・市場創造貢献大賞」で「ネーミングが光ったで賞」を受賞  
(2016年12月、(株)ヘルスビジネスマガジン社主催)
- 第29回「ヒット商品賞・話題商品賞」のヒット商品賞(健康食品・サプリメント部門)で優秀賞を受賞  
(2017年2月、(株)ドラッグマガジンと八千代会主催)

## COLUMN オープンウォータースイミング\*の平井康翔選手が当社の所属選手に!

国内外で大会が開催されるオープンウォータースイミング(OWS)競技の第一線で活躍する平井康翔選手が2017年1月より当社の所属選手として活動することになりました。平井選手は2012年に開催された第30回ロンドンオリンピックOWS 10km競技において、日本人として初めてオリンピック出場を果たし15位となったほか、2016年開催の第31回リオデジャネイロオリンピックでは8位に入り、同競技において日本人初の入賞という快挙を達成しています。当社グループでは、2020年に開催される第32回東京オリンピック出場を目指す平井選手をグループ一丸となってサポートしていきます。

\* 海や川・湖といった自然の水の中で行われる長距離水泳競技です。2008年からはオリンピック正式種目として採用されています。



連結財政状態計算書(百万円)

科目	前期末 2016.3.31	当期末 2017.3.31
<b>資産</b>		
現金及び現金同等物	248,050	391,572
営業債権及びその他の債権	369,006	472,128
証券業関連資産		
預託金	1,139,908	1,399,851
信用取引資産	516,843	617,550
その他の証券業関連資産	251,924	315,640
証券業関連資産計	1,908,675	2,333,041
その他の金融資産	29,215	30,050
営業投資有価証券	118,886	111,067
その他の投資有価証券	173,907	186,512
持分法で会計処理されている投資	43,853	90,394
投資不動産	12,027	7,105
有形固定資産	11,778	10,498
無形資産	188,454	185,493
その他の資産	22,607	28,392
繰延税金資産	326	3,749
資産合計	3,126,784	3,850,001

科目	前期末 2016.3.31	当期末 2017.3.31
<b>負債</b>		
社債及び借入金	324,585	518,977
営業債務及びその他の債務	38,759	52,887
証券業関連負債		
信用取引負債	85,677	135,698
有価証券担保借入金	344,423	399,673
顧客からの預り金	573,957	738,144
受入保証金	533,862	600,621
その他の証券業関連負債	222,424	304,476
証券業関連負債計	1,760,343	2,178,612
顧客預金	386,027	485,827
保険契約負債	154,133	147,573
未払法人所得税	7,066	10,040
その他の金融負債	12,899	14,663
その他の負債	13,396	11,946
繰延税金負債	10,513	13,952
負債合計	2,707,721	3,434,477
<b>資本</b>		
資本金	81,681	81,681
資本剰余金	145,735	128,004
自己株式	▲19,132	▲23,801
その他の資本の構成要素	17,107	22,720
利益剰余金	146,199	169,388
親会社の所有者に帰属する持分合計	371,590	377,992
非支配持分	47,473	37,532
資本合計	419,063	415,524
負債・資本合計	3,126,784	3,850,001

POINT:01 資産合計/負債合計

ボラティリティの高い市場環境下においてSBI証券の顧客による取引が増大したため、預託金や信用取引資産等からなる証券業関連資産が前期末比4,244億円増、顧客からの預り金などを含む証券業関連負債が同4,183億円増と両建てで増加しました。また、韓国のSBI貯蓄銀行の貸出

および預金が順調に増加したことなどから、前期末比で資産では営業債権及びその他債権が1,031億円、負債では顧客預金が998億円増加しました。これらを主な要因として、資産合計は前期末と比べて7,232億円、負債合計は同7,268億円増加しました。

## 連結損益計算書(百万円)

科目	前期 2015.4.1~2016.3.31	当期 2016.4.1~2017.3.31
収益	261,744	261,939
費用		
金融収益に係る金融費用	▲15,836	▲14,543
売上原価	▲83,692	▲98,982
販売費及び一般管理費	▲96,646	▲95,970
その他の金融費用	▲4,442	▲3,477
その他の費用	▲10,484	▲8,677
費用合計	▲211,100	▲221,649
持分法による投資利益	1,583	2,849
税引前利益	52,227	43,139
法人所得税費用	▲15,561	▲14,836
当期利益	36,666	28,303
当期利益の帰属		
親会社の所有者	34,115	32,455
非支配持分	2,551	▲4,152

### POINT:02 収益/親会社の所有者に帰属する当期利益

親会社の所有者に帰属する当期利益は325億円と前期比4.9%減となりました。これは、低調な株式市況や期中において外国為替市場が急激に円高に進んだことなどが影響したためですが、その一方で、黒字基調を維持したSBI損保において保険契約から生じる収益が約69億円増加したことなどから、売上高に相当する収益は前期比0.1%増の2,619億円と過去最高を更新しました。このように、保険事業が順調に拡大していることや銀行事業が安定的に収益を計上していることなどから、当社の業績においては、株式市況の下落に対する抵抗力が着実に向上しています。

## 連結包括利益計算書(百万円)

科目	前期 2015.4.1~2016.3.31	当期 2016.4.1~2017.3.31
当期利益	36,666	28,303
その他の包括利益		
純損益に振替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	301	124
純損益に振替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	▲18,349	680
持分法適用会社のその他の包括利益に対する持分	▲1,555	3,699
税引後その他の包括利益	▲19,603	4,503
当期包括利益	17,063	32,806
当期包括利益の帰属		
親会社の所有者	14,750	38,082
非支配持分	2,313	▲5,276

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)(百万円)

科目	前期 2015.4.1~2016.3.31	当期 2016.4.1~2017.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	32,478	▲17,952
投資活動によるキャッシュ・フロー	11,179	2,437
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲76,230	159,467
現金及び現金同等物の増減額	▲32,573	143,952
現金及び現金同等物の期首残高	290,826	248,050
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響	▲10,203	▲430
現金及び現金同等物の期末残高	248,050	391,572

### POINT:03 営業/投資/財務活動によるキャッシュ・フロー

韓国のSBI貯蓄銀行の順調な業容拡大に伴い顧客預金が増加するとともに営業貸付金等も増加したことにより、営業活動によるキャッシュ・フローは180億円の支出となりました。また、投資活動によるキャッシュ・フローは主に子会社の売却などにより24億円の収入に、財務活動によるキャッシュ・フローは1,595億円の収入となりました。

## 会社概要

社名	SBIホールディングス株式会社
英文表記	SBI Holdings, Inc.
本社	東京都港区六本木一丁目6番1号
事業内容	株式等の保有を通じた企業グループの統括・運営等
設立	1999年7月8日
資本金	81,681百万円
従業員数	連結4,455名 単体187名

## 役員

代表取締役 執行役員社長	北尾 吉孝
代表取締役 執行役員副社長	川島 克哉
代表取締役 執行役員副社長	中川 隆
取締役 執行役員専務	朝倉 智也
取締役 執行役員常務	森田 俊平
取締役 執行役員常務	中塚 一宏
取締役 執行役員常務	高村 正人
取締役 執行役員常務	重光 達雄
取締役 執行役員	山田 真幸
取締役	吉田 正樹
取締役(社外)	永野 紀吉
取締役(社外)	渡邊 啓司
取締役(社外)	玉木 昭宏
取締役(社外)	丸物 正直
取締役(社外)	佐藤 輝英
取締役(社外)	ワイズマン 廣田 綾子
取締役(社外)	佐竹 康峰
取締役(社外)	竹中 平蔵
常勤監査役	藤井 厚司
監査役	多田 稔
監査役(社外)	関口 泰央
監査役(社外)	永末 裕明

## 株式の状況

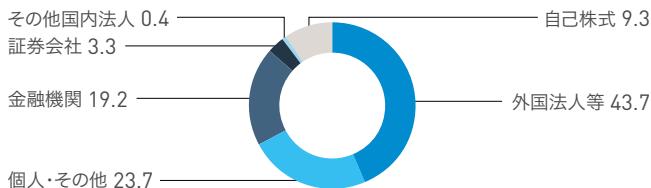
発行可能株式総数	341,690,000 株
発行済株式総数	224,561,761 株
株主数	133,067 名

## 大株主(上位10名)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	9,670,430	4.7
NORTHERN TRUST GLOBAL SERVICES LIMITED RE 15PCT TREATY ACCOUNT (NON LENDING)	9,561,600	4.6
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	7,720,000	3.7
ザバンク オブ ニューヨーク 133524	4,892,436	2.4
ジェーピー モルガン チェース バンク 385164	4,470,400	2.1
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口9)	4,192,100	2.0
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	4,097,600	2.0
北尾 吉孝	3,907,960	1.9
サジヤツブ	3,887,340	1.9
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー 505234	3,262,932	1.6

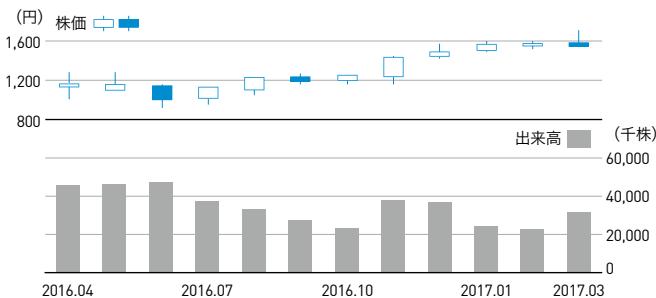
\* 持株比率は自己株式を控除し、小数点以下第2位を切り捨てて表記しています。

## 所有者属性別株式分布状況(%)



\* 小数点以下第2位を切り捨てて表記しています。

## 株価/出来高の推移



事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会については3月31日です。その他必要があるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
期末配当の基準日	3月31日
中間配当の基準日	9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	0120-288-324(フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日を除く)
公告方法	電子公告により行う*。
公告掲載 URL	<a href="http://www.sbigroup.co.jp/investors/koukoku/">http://www.sbigroup.co.jp/investors/koukoku/</a>

\*ただし、事故等やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

## 株式に関するお問い合わせ先のご案内

- 届出住所・姓名などのご変更
- 配当金の受領方法・振込先のご変更
- 単元未満株式の買取・買増請求(証券会社でお取引されている株主さま)

口座を開設されている証券会社へ  
お問い合わせください。

- 特別口座に関する全てのお手続き・お問い合わせ
- 郵便物の発送と返戻に関すること
- 未払配当金の支払いや配当金領収書の紛失等のトラブルについて
- 支払期間経過後の配当金について
- 単元未満株式の買取・買増請求(特別口座をご利用の株主さま)
- その他、株式事務に関する一般的なお問い合わせ

みずほ信託銀行(株)証券代行部へ  
お問い合わせください。

 0120-288-324  
(受付時間:土・日・祝日を除く平日 9:00～17:00)

## 単元未満株式(1株～99株)をお持ちの株主さまへ

- 単元未満株式(1株～99株)とは、当社の最低売買単位である1単元(100株)に満たない株式のことをいいます。単元未満株式(1株～99株)については、証券市場で売買することができません。
- 単元未満株式(1株～99株)をお持ちの株主さまは、単元株式(100株)にするために必要な株数を当社からご購入(単元未満株式の買増請求)または単元未満株式を当社に対し売却(単元未満株式の買取請求)いただくことができます。

2017年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された株主の皆さまを対象に、株主優待を実施いたします。

ご優待内容	アラブラス ゴールド (90粒)	アラブラス 糖ダウン (10カプセル)	アラブラス ゴールド (270粒)	アラブラス モイスチャライジングクリーム
対象となる株主さま	 (通常価格9,800円(税込))	 (通常価格1,944円(税込))	 (通常価格24,300円(税込))	 (通常価格12,000円(税込))
1年を超えて継続保有かつ2017年3月31日現在の保有株式数が1,000株(10単元)以上	1個	2個	1個	1個
上記以外の株主さまで、2017年3月31日現在の保有株式数が100株(1単元)以上	1個	1個	—	—

なお、単元未満株式(1~99株)のみをお持ちの株主さまを含む全ての株主さまに、SBIアラブプロモが販売する健康補助食品(サプリメント)や化粧品を、通常価格から全て50%割引の優待価格で購入できる割引購入申込券を1枚贈呈

### 無料引換申込券および割引購入申込券の有効期限

2017年9月末日(当日の消印まで有効)とさせていただきます。

### ご利用方法

#### ■ 無料引換申込券

同封の議決権行使書から切取線に沿って切り離したうえで、必要事項を記入のうえご返送ください。

#### ■ 割引購入申込券

同封の割引購入券(ハガキ)に必要事項を記入のうえご返送ください。

### 商品の発送について

無料引換申込券により引換のお申し込みをされた株主さまへの商品の発送は、概ね次のとおり予定しております。

- (1) 2017年6月末日までの到着分については、2017年7月末日頃に発送
- (2) 2017年7月末日までの到着分については、2017年8月末日頃に発送
- (3) 2017年9月末日(当日の消印まで有効)までの到着分については、2017年10月下旬に発送

### 株主優待に関するお問い合わせ

みずほ信託銀行 証券代行部  
 0120-288-324  
 (9:00~17:00 土・日・祝日を除く)

### 商品に関するお問い合わせ

SBIアラブプロモ株式会社  
 0120-952-755  
 (9:00~19:00 年中無休)  
 公式オンラインショップ  
<http://www.5-ala.jp/>

(注)1年を超えて継続保有いただいている株主さまとは、直近3回の全ての基準日(2016年3月31日、2016年9月30日および2017年3月31日)の当社株主名簿に、同一株主番号で継続して記載または記録されている株主さまといたします。株式交換により当社株主となった場合は、その直後の基準日から起算し、株式交換以前の時期との通算はいたしません。また相続、株主名簿からの除籍等により株主番号が変更になった場合も、その直後の基準日から起算いたします。

\* 海外各国の医薬品、食品および化粧品に関する法規制等の関係により、上記無料引換申込券による引換商品および割引購入申込券による購入商品の発送先は日本国内に限ります。

## SBIホールディングス 株式会社

〒106-6019 東京都港区六本木1-6-1

泉ガーデンタワー19F

Tel 03-6229-0100 Fax 03-3589-7958

### (免責事項)

この報告書には、SBIホールディングス(株)およびグループ会社の現在の計画、戦略、および将来の業績見通しに関する記述が含まれています。これらは各資料発表時点においてSBIホールディングス(株)の経営方針により、入手可能な情報およびSBIホールディングス(株)が合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものです。したがって、主要市場における経済情勢やサービスに対する需要動向、為替相場の変動など、様々な要因の変化により、実際の業績は、記述されている見通しとは異なる結果となり得ることをご承知おきください。

